

令和3年度三重県立飯野高等学校全日制学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○地域から愛され信頼される学校	
(2)	育みたい 児童生徒像	○自分と他者の違いを認め、自分を大切にし、他者を思いやることのできる生徒 ○基礎基本の力を身に着け、信頼される社会人として地域に貢献できる生徒 ○専門的な知識、技能の習得を通じて、自由で豊かな表現力、創造力を発揮できる生徒
	ありたい 教職員像	○生徒一人ひとりが自らの目標に向かって真剣に取り組むことができるよう、生徒のよき理解者となり、適切なサポートができる教職員 ○学習指導や生徒指導など、指導力の向上をめざして、ともに学びあい学び続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 専門的な知識・技能の向上、楽しく充実した高校生活 【保護者】 卒業後に自立できる基礎力と専門性の涵養 【地域】 デザインや英語力を活かした活動など、本校ならではの社会貢献	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈保護者〉 高校卒業後の進路実現 〈中学校〉 多様な生徒の受け入れ 〈地域〉 確かな学力と日本語力の育成	〈保護者〉 本校の教育に対する理解と学校の活動に対する協力 〈中学校〉 高校生活に適應できる生徒の育成 〈地域〉 企業等の積極的受け入れ
(3) 前年度の学校関係者評価等	○応用デザイン科 ・卒業制作展、ファッションショーは個性的でレベルの高い作品を制作することができている。 ・先生方の協力、友人から影響を受け素晴らしい教育を受けることができている。 ・生徒の学習習慣に関して着目し、分析する必要がある。 ○英語コミュニケーション科 ・英語表現演習発表では様々なテーマでスピーチし、素晴らしいステージ発表であった。 ・広くPRする方法を検討してみようか。 ○共通 ・飯野高校は個性をもった生徒集団であり、個人の能力を将来に生かせることができる。 ・在校生から中学生に向けて飯野高校のよさを発信する機会を増やすとよい。 ・人権教育、中でも多文化共生教育に力を入れているのが数字で表れている。 ・保護者の信頼度、満足度が高く、地域の中学校生徒数が減少する中で、志願者を維持している。	
(4) 現状と課題	教育活動	特色のある専門性の高い教育を通じて、成果、実績を積み重ねてきており、地域からの期待、信頼は厚い。また、日本語に課題を持つ生徒にかかる組織的な取組が定着しており、日本語指導に対する教職員の理解も進んでいる。 一方、基礎学力が十分でない生徒、基本的な生活習慣が定着していない生徒や進路意識が低い生徒が一部に存在する。また、特別な支援や配慮が必要な生徒も在籍しており、それぞれの状況に応じて、保護者や関係機関等と連携しながら、きめ細かな対応が必要である。
	学校運営等	応用デザイン科と英語コミュニケーション科の専門学科からなる本校は、CLDの生徒の割合が高い特徴的な学校である。そのため、生徒、保護者、地域からの学校への期待が明確であるうえ、教職員のモチベーションが高く、学校改革に教職員が一致して取り組む雰囲気がある。 一方、教職員の数が少ないため、授業改善や校務分掌の編成等において、本校独自の工夫をしながら進める必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none">・ 3年間を見通した系統的キャリア教育の推進・ ICTの活用による授業改善の推進・ 基本的な生活習慣やマナー指導の徹底・ CLD生徒支援教育の充実及び日本語教育の推進・ 多文化共生教育の充実及び命を大切にする教育の推進
学校運営等	<ul style="list-style-type: none">・ 授業の改善等、教職員の指導力向上・ 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流推進・ 教職員のコンプライアンス意識の向上・ 保護者及び地域との協力・連携・ 安心安全な教育環境の充実・ 総勤務時間の縮減及び職場の環境整備

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の推進	<p>(1) 進路意識向上のための取組 【活動指標】進路に関わるガイダンス、講話、探究的な学習等全校で5回以上</p> <p>(2) 進路希望実現のための取組 【活動指標】1、2年生の基礎力診断テストを年間2回 2、3年生の大学・短大進学希望者に模試を積極的に推進する。 「我究」を年間20回以上 【成果指標】進学希望者の進路決定率70%以上 学校幹旋の1次試験による合格率80%以上</p>	<p>(1) 1年4回 2年4回 3年2回</p> <p>(2) 「我究」22回 進学進路決定率 1月31日現在 81.3%(74/91人) 幹旋1次合格率 82.7%(24/29人)</p>	◎
CLD生徒支援教育の充実	<p>(1) 日本語能力の向上 【活動指標】日本語能力試験の受験促進 【成果指標】第1言語が日本語ではない生徒のN3以上の合格率60%</p> <p>(2) 奨学金の申込など経済的に困難な生徒・家庭への支援 【活動指標】予約奨学金の手続きが滞りなく実施できる。 【成果指標】説明会、申請手続き指導を年間5回以上</p>	<p>(1) 合格率は67%(N1の合格率は86%, N2の合格率は67%, N3の合格率は40%であった)。 (2) 6回実施。別途個別での申請手続き指導を数十回実施</p>	
生徒指導の充実	<p>(1) いじめの早期発見と対応 【活動指標】学期に1回の面談と、事前アンケートの実施</p> <p>(2) 身だしなみの指導と、規則正しい学校生活の確立 【活動指標】服装頭髪指導を年間6回 【成果指標】イエローカード発行枚数550枚以下(令和2年度507枚)</p>	<p>(1) 全学期アンケート実施、面談は1・3学期実施 (2) 頭髪服装検査5回実施 イエローカード515枚</p>	※
人権、多文化共生、命の大切さについての学びの充実	<p>(1) 人権についての理解と知識を深め、互いを尊重する意欲と態度を育むための人権学習の実施 【活動指標】年間5回以上</p> <p>(2) 人権学習や人権に関する取組等の発信 【活動指標】「人権だより」の発行を年間3回以上</p> <p>(3) 教員の人権に関する研修等の実施 【活動指標】教職員研修またはフィールドワークを年間1回以上 教職員向け「人権だより」の発行を年間1回以上 【成果指標】人権に対する意識や理解の深まりを感じた教職員数60%以上</p>	<p>(1) 実施 5回 ※上記に加え、担当からの講話3回 (2) 発行 6回</p> <p>(3) 研修 1回</p> <p>1回発行 61.6%</p>	◎
学習習慣及び生活習慣の充実	<p>(1) 学習習慣の定着 【活動指標】補習や宿題等を定期的実施 【成果指標】学習習慣が身についたと感じている生徒の割合65%以上</p> <p>(2) 生活習慣の確立 【活動指標】家庭への啓発と生活アンケートの実施 【成果指標】朝食をとる生徒の割合75%以上</p>	<p>(1) 学習習慣身についている 67.8% (2) 保健だより、7回発行。生活習慣アンケート、「毎日食べる」57%、「だいたい食べ</p>	

		る」含めると 77%	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色ある「我究」を継続しながら、ガイダンス等のタイミング、内容を検討し、生徒の進路実現に向けた取り組みを改善させていく。 ・進路未決定者への組織的対応を進める。 ・CLD生徒が日本語能力試験を目指して力をつけていく。 			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業改善を図るための教職員の指導力向上	<p>(1) 異教科の教員2～3人でチーム編成し、相互に授業を見学する。指摘し合うことで授業力向上を図る。 【活動指標】授業見学を年間2回以上</p> <p>(2) 授業改善に向けた教職員の授業研修会の実施 【活動指標】授業研修会を年間1回以上</p> <p>(3) ICTを活用した授業の実施 【活動指標】ICTを活用して授業実践した教員80%以上</p>	<p>(1) 6/14-25 に1回目に実施済。11/17-19に2回目実施</p> <p>(2) 7/21にICT授業研修会を実施済。</p> <p>(3) 9月にオンライン授業で全教員実施済</p>	◎
応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流	<p>(1) 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流授業、学校行事、卒業制作展、英語表現演習発表会等で交流をする。 【活動指標】交流会を年間5回以上</p>	<p>リトルワールド2回(総探)、学科紹介(総探)、修学旅行関係2回、卒行制作見学・英表演習鑑賞 計8回交流</p>	
地域への貢献活動と情報発信	<p>(1) 鈴鹿ロータリークラブとの交流、連携 【活動指標】地域の清掃など貢献活動の実施 【成果指標】生徒が参加する行事を年間1回以上</p> <p>(2) 積極的な学校紹介 【活動指標】中学校訪問を40回以上 市内、近隣教育委員会主催の学校紹介へ複数名の教職員や生徒で参加 【成果指標】志願者数が前年度(応デ前期96名、英コミ前期86名、後期41名)以上</p>	<p>6月18日(金)学校環境デーに生徒53名が参加</p> <p>11月現在27校訪問。各中学校出前授業では本校生徒を同伴して学校の様子を紹介した。前期選抜志願者数 応デ 102名 英コミ 90名</p>	
教職員や生徒、保護者への情報提供、情報発信	<p>(1) 生徒、保護者の学校に対するニーズや信頼度等を把握するためのアンケートの実施 【活動指標】アンケートを年間1回(12月実施) 【成果指標】保護者の学校に対する信頼度80%以上</p> <p>(2) 生徒、保護者への携帯メール(マチコミメール)による情報提供 【活動指標】マチコミメールを年間40件以上</p> <p>(3) HP、たより等による情報発信 【活動指標】HPの新着情報を年間30件以上 「保健だより」を年間5回以上配付 「図書だより」を年間8回以上配付</p>	<p>生徒、保護者アンケートは12月実施</p> <p>マチコミメール 124回発信 HPによる発信 40件</p> <p>「保健だより」7回配付 「図書だより」9回配付</p>	※
職員の総勤務時間の短縮及び職場環境の整備	<p>(1) 総勤務時間の縮減 【活動指標】設定した日(年間12日)の定時に退校できた職員の割合70%以上 予定通り休養日(週1回以上)を実施できた部活動の割合100% 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合70%以上 夏季休業中の学校閉校日を4日</p>	<p>・定時退校日退校できた職員4月～1月平均74% ・部活動休養日100% ・会議 36/46 78% ・夏季3日、冬季1</p>	◎

	<p>【成果指標】年360時間を超える時間外労働数0人 月45時間を超える時間外労働数の延べ人数0人 1人あたりの平均時間外労働時間/月30時間以下 1人当たりの年間休暇取得日数15日以上 (2) 安心・安全な職場環境づくり 【活動指標】「信頼される学校であるための行動計画」の周知徹底</p>	<p>日 ・45時間超 48名 (4月～1月) ・80時間超 3名 (4月～1月) ・平均時間外労働時間 28.6h/1人 ・年休取得日数 17.2日/1人 (4月～1月)</p>	
--	---	--	--

改善課題

- ・ 特色ある両学科、相互理解を深め、認め合う環境を醸成する。
- ・ 生き生きと表現できる生徒をアピールするため、地域へ情報発信する。
- ・ 年休取得は増加しているが、長時間労働が改善することが難しい。引き続き生活の質的向上を目指す。

5 学校関係者評価

- ・ 応用デザイン科、英語コミュニケーション科とも素晴らしい発表、ステージに感動し、圧倒した。
- ・ 生徒たちが輝ける場があり、生徒が楽しみながら取り組んでいるのはよい環境である。
- ・ 三重県内だけでなく、唯一無二の学校に育ってほしい。
- ・ 学習指導、先生方の頑張り、努力が感じられる、今後も継続してほしい。
- ・ ケーブルテレビ等を利用して、情報発信し、鈴鹿市や県民に学校を知っていただけるとよい。
- ・ 満足度アンケートでは、生徒と保護者の回答の相関性を分析するとよい。
- ・ コロナ禍において制限が強い状況ではあるが、どうしても思い出として残すべきものは、精選することが必要ではないか。
- ・ 美術、英語の専門学科に定時制という3つの特色があり非常に珍しく、特徴を持った生徒たちを知ってもらうためにPR方法を検討するとよい。

6 次年度に向けた改善策

- ・ コロナ禍において生徒たちが満足できる高校生活を保障するために学校行事等を精選し、本校独自の取組を行っていく。
- ・ 生徒自身が進路実現に向けて未来を描くことができるよう、「我究」をはじめとするキャリア教育への取組を検討する。
- ・ 特色ある飯野高校を紹介することで中学生や地域、県民にアピールできるよう、情報発信をする。